



入館者 25 万人達成（8 月 14 日）



まほろんイベント「古代の鍛冶体験」（11 月 1 日）

年報 2009 の発刊によせて

館 長 藤 本 強

2008 年（平成 20 年）10 月 12 日には、第 20 回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア ふくしま 2008」においでになっていた秋篠宮ご夫妻をまほろんにお迎えすることができました。体験学習をしていた子供たちの様子を熱心にご覧いただき、親しく声もかけていただきました。皇族のご来館は初めてのことで、お年寄りを主にした周辺の方々がお出迎えとお見送りに多数玄関に集まったのが印象的でした。

8 月 14 日には、入館者が 25 万人になりました。こつこつと地味ながら努力してきたことがこうした結果につながったものと思われます。来館者の方々をはじめとしてご支援・ご協力いただいている方々に改めて感謝します。

指定管理者制度による第 1 期の 3 年が経ち、無事終了することができました。幸い、続く 5 年間の運営もこれまで通りに担当していくことにもなりました。長期にわたってまほろんを運営していく立場に立つと、種々の課題が生じています。特に貴重な資料の保管という点では運営母体が安定していないと責任の所在が曖昧になります。県民や国民に対し、責任をもって資料を保管し、活用する機関としての位置づけを考える必要があります。前年の年報にも書いたことですが、もう一度強調しておきたいと思います。

入館者の数は 33,007 人と昨年度に及びませんでした。館外利用者の数は 14,025 名と過去最高の数になった前年の数には僅かに達しませんでした。県外の入館者の落ち込みが大きく、景気の低迷がこうしたところにも影響しているようです。残念ですがやむをえないことです。ホームページのアクセス数も昨年同様に 4 万件を超えています。特筆すべきものは、データベースへのアクセス数が 35 万件を超えたことです。これまで年間 3 万件ほどで推移し、2007 年度にはじめて 10 万件を超えたというのが過去最高の数字であったのが、一挙に 3.5 倍以上になりました。それまでの数年間と比べると 10 倍以上になったといえます。長期間におよぶ地道な営みが成果を見せはじめたということができましょう。

企画展では、まず 4～5 月にかけて 2006 年度の 3 月から引き続いた「まほろん春のてんじ 新編陸奥国風土記 卷之六 行方郡」を開きました。7～8 月には「まほろん夏 of てんじ 金の冠 鐵のかぶとー東京国立博物館収蔵資料に見るふくしまの古墳時代ー」を開きました。東京国立博物館と相互貸借をした資料を中心にしたてんじです。10～12 月に指定文化財展「まほろん秋 of てんじ ふくしまの重要文化財Ⅵ：考古資料：石川町鳥内遺跡」を開催しました。2009 年 3 月からは「まほろん春 of てんじ 新編陸奥国風土記 卷之七 信夫郡」をはじめ、これは 2009 年度に引き継ぎました。すべてふくしまの資料を県民に知っていただくてんじです。

本年度は、2007 年の製鉄の復元実験で得た銑鉄を利用して蕨手刀形のペーパーナイフを作る体験学習をしました。自ら作った鉄で刃物ができることに感動しきりでした。

おでかけまほろんも小規模校を主にして 20 ヶ所で開催し、700 名近い生徒さんに体験いただきました。県民の方々の中にまほろんの仕事が着実に根付いてきていることを実感しています。これからも多くの方々に支えられながら、着実に歩み続けたいと考えています。

目 次

第1章 まほろんの沿革……………	1
1 開館までのあゆみ……………	1
2 開館後のあゆみ……………	1
第2章 平成20年度の組織と予算……………	3
1 組織……………	3
2 予算……………	3
第3章 管理業務の実施および利用状況…	4
1 利用状況……………	4
1. 利用者数……………	4
2. 利用者の内訳と傾向……………	4
2 維持管理に関する業務……………	5
1. 建築物・設備・環境衛生・	
外構等保守管理業務……………	5
2. 施設・設備等の修繕状況……………	5
3. 備品・物品管理業務……………	5
3 文化財の収蔵・保管に関する業務…	6
1. 収蔵資料……………	6
2. 資料貸し出し……………	6
3. 写真掲載等承認……………	6
4. 資料閲覧……………	7
4 文化財の活用に関する業務……………	8
1. 常設展示……………	8
2. 企画展示……………	9
3. 講演会・講習会……………	14
4. 体験学習……………	14
5 文化財に関する情報発信……………	18
1. ホームページによる情報発信……………	18
2. まほろん通信……………	19
6 文化財に関する研修……………	20
1. 研修実施の概要……………	20
2. 研修実施状況……………	21
7 文化財の活用に関する調査研究……………	22
1. 研究復元製作……………	22
2. 研究紀要……………	23
8 ボランティアの運営……………	23
1. 登録……………	23
2. 活動内容……………	23
3. 受け入れ体制……………	24
4. ボランティアイベント……………	24
9 その他……………	24

1. 年報……………	24
2. 運営協議会の開催……………	24
第4章 まほろん施設の概要……………	25
第5章 まほろんの条例・規則……………	27
1 福島県文化財センター白河館条例…	27
2 福島県文化財センター白河館条例施行規則…	27
まほろんの利用案内……………	28

第1章 まほろんの沿革

1 開館までのあゆみ

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成9年度 基本設計

平成10年度 実施設計・用地取得・造成工事

平成11年度 造成工事・建築工事

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成12年3月

シンボルマーク・ロゴマークの決定

平成12年度

建築工事・環境整備工事・野外展示工事・屋内展示工事

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年度 屋内展示工事

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

2 開館後のあゆみ

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成13年8月5日 開館記念イベント開催

平成13年8月17日 入館者1万人到達



開館記念イベントのようす



にぎわう体験活動室

平成14年1月26日 入館者3万人到達

平成14年7月21日 開館1周年記念イベント開催

平成15年7月20日 開館2周年記念イベント開催

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成16年7月24日～8月8日 まほろん移動展郡山市民文化センター開催

平成16年7月25日 開館3周年記念イベント開催

平成17年7月18日

開館4周年記念イベント「まほろん4周年だよ！ボランティア2005」開催

平成17年9月4日 入館者15万人到達

平成18年7月15日～7月17日

「おかげさまで5周年！！まほろん感謝祭」開催

平成18年8月5日～9月18日

福島県立博物館移動展「馬と人の年代記～大陸からふくしまへ～」開催

平成19年3月10日～5月13日

平成18年度まほろん春のてんじ「新編陸奥



特別展のようす



実技講座アングイン編みのようす

国風土記 巻之五 会津郡・耶麻郡 その二」開催

平成 19 年 3 月 10 日～5 月 13 日

まほろん移動展「新編陸奥国風土記 巻之五 会津郡・耶麻郡 その一」福島県立博物館開催

平成 19 年 4 月 14 日 入館者 20 万人到達

平成 19 年 10 月 6 日～12 月 2 日

平成 19 年度まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財Ⅴ 考古資料：古墳時代前期編」開催

平成 19 年 12 月 9 日

「まほろん祭りボランティア 2007」開催

平成 20 年 1 月 23 日～2 月 6 日

福島県文化振興事業団総力事業「ふくしま発信!!! 古代鉄生産の技術」企画展 福島県文化センター開催

平成 20 年 1 月 26 日～1 月 27 日

福島県文化振興事業団総力事業「ふくしま発信!!! 古代鉄生産の技術」講演会・シンポジウム・上映会 福島県文化センター開催

平成 20 年 3 月 15 日～5 月 11 日

平成 19 年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 巻之六 行方郡」開催

平成 20 年 7 月 12 日～7 月 13 日

まほろんイベント「夏まつり」開催

平成 20 年 7 月 26 日～8 月 31 日

まほろん夏のてんじ「金の冠 鉄のかぶと～東京国立博物館収蔵資料に見るふくしまの古墳時代～」開催

平成 20 年 8 月 14 日 入館者 25 万人到達

平成 20 年 10 月 4 日～12 月 7 日



教職員発掘調査体験研修のようす

まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財Ⅵ 考古資料：石川町鳥内遺跡」開催

平成 20 年 10 月 11 日～10 月 15 日

第 20 回全国生涯学習フェスティバル「まなびピアふくしま 2008」体験学習広場へ参加 ビッグパレットふくしま開催

平成 20 年 10 月 12 日

第 20 回全国生涯学習フェスティバル「まなびピアふくしま 2008」開会式出席、県内視察のため来福されていた秋篠宮ご夫妻、御来館

平成 20 年 12 月 7 日

まほろんイベント「餅つき大会」・ボランティアイベント「まほろん祭りボランティア 2008」開催

平成 21 年 2 月 15 日

まほろんイベント「冬まつり」開催

平成 21 年 3 月 14 日～5 月 17 日

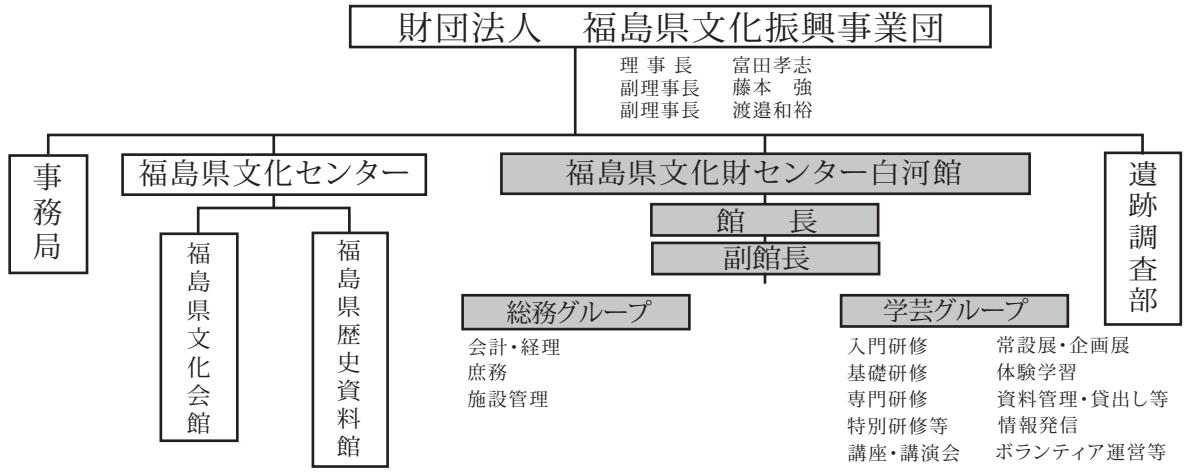
平成 20 年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 巻之七 信夫郡」開催



秋篠宮御夫妻御来館のようす

第2章 平成20年度の組織と予算

1 組 織



職員名簿

職 名		氏 名		職 名		氏 名		
館 長		藤 本 強		学芸グループ	主任学芸員	佐 藤 悦 夫		
副 館 長		渡 辺 力			主任学芸員	能 登 谷 宣 康		
総務グループ	課長(兼務)		渡 辺 力		主任学芸員	菅 原 祥 夫		
	主 査		鈴 木 幸 夫		主任学芸員	大 河 原 勉		
	主 事		新井田 泰 徳		主任学芸員	大 波 紀 子		
	臨時事務補助員		鈴 木 敏 江		副主任学芸員	丹 治 篤 嘉		
	臨時事務補助員		斉 藤 陽 子 (3)		副主任学芸員	轡 田 克 史		
休日等物品販売補助員		吉 田 美智子			学 芸 員	山 田 めぐみ		
学芸グループ	課 長 心 得		芳 賀 英 一		アテンダント	岡 田 百合恵		
	主 幹		安 田 稔		アテンダント	八 島 千 夏		
	副 主 幹		吉 田 秀 亨 (2)		アテンダント	大 戸 若 菜		
	専門学芸員		石 本 弘		アテンダント	岸 波 理 恵		
	専門学芸員		高 橋 信 一 (1)		アテンダント	沼 田 紗 貴		
専門学芸員		藤 谷 誠		職員総数 24名 (内県派遣2名)				

(1) 5月15日転入 (2) 5月15日転出 (3) 3月1日採用

2 予 算

一般会計

<収入>

・指定管理者委託料	232,885,800 円
・雑収入	24,326 円
・合計	232,910,126 円

<支出>

・文化財センター白河館管理運営費	232,758,412 円
・合計	232,758,412 円

特別会計

<収入>

・事業収入(物品販売収入)	5,633,620 円
・雑収入	104,425 円
・合計	5,738,045 円

<支出>

・事業費	5,173,999 円
・租税公課費	275,398 円
・合計	5,449,397 円

第3章 管理業務の実施および利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成20年度の総利用者数は47,032名（19年度48,677名）で、その内訳は入館者が33,007名（19年度34,235名）、県立博物館との共催企画展や館外文化財研修、小中学校など館外体験学習等の館外利用者が14,025名（19年度14,442名）であり、入館者、館外利用者ともに前年度より減少した。入館者については、4月～8月は前年に比べて合計で871名増と順調に推移していたが、9月以降は各月とも前年度より減少した。入館者減少対策としてPR活動を活発に行ったり、2月に「まほろん冬まつり」を新規に企画して実施するなどの方策を講じたが、最終的に前年に比べて1,228名の減少であった。

入館者の内、一般来館者は前年と同様の入館者であったが、団体利用者が12,996名で、前年度に比べて1,185名減少しており、団体利用者の減少が入館者減少の大きな要因となった。

2. 利用者の内訳と傾向

（1）地域別利用状況

館利用者の県内、県外比率は、県内来館者82%（うち白河市39%）、県外来館者18%で

あり、前年度より県内利用者が6%ほど増加している。

（2）年齢層別利用状況

児童・生徒（高校生以下）が42%を占める。

（3）団体利用状況と傾向

団体利用の総数は団体数が354団体（19年度388団体）、団体来館者数は12,996名（19年度14,181名）とともに前年より減少している。利用の内訳は、小学校などの学校関係の利用が総数の58%を占め、ほぼ前年と同様の利用があった。学校等の利用は、国立那須甲子青少年自然の家の団体活動との連携を積極的に図るなどの方策や、県内だけでなく他県の小学校等への広報活動も積極的に行っている結果と思われる。その他、生涯学習関係では、子供会活動での利用が前年同様の利用者数であったが、行政機関関係（前年比586名減少）と旅行団体などその他団体（前年比1,284名減少）が20年度は大きく減少している。行政関係では、9月以降、財政難や燃料費の高騰から予約が取り消されることもあり、また旅行団体関係では、これまで旅行関係利用の主流であった付近の温泉施設利用者の来館が9月以降急激に減少している。20年秋以降の景気低迷が大きく影響しているものと推察される。

	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一般	入館者合計	月別構成比	日平均
4月	27	172	1,261	13	1,313	2,759	8.36	102
5月	28	251	1,655	19	1,994	3,919	11.87	140
6月	25	275	2,135	42	2,204	4,656	14.11	186
7月	29	399	1,421	31	1,989	3,840	11.63	132
8月	30	364	1,161	96	2,115	3,736	11.32	125
9月	24	129	938	12	1,603	2,682	8.13	112
10月	28	291	763	49	2,007	3,110	9.42	111
11月	26	131	512	49	1,539	2,231	6.76	86
12月	22	198	342	4	1,005	1,549	4.69	70
1月	23	114	133	4	754	1,005	3.04	44
2月	23	193	316	53	1,109	1,671	5.06	73
3月	26	226	328	28	1,267	1,849	5.60	71
合計	311日	2743人	10,965人	400人	18,899人	33,007人	100.00%	106人

月別入館者数

団 体			平成20年度														平成19年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計	
学校関係	幼稚園・保育園	園数	0	0	1	2	0	0	3	0	1	1	1	0	9	10	
		入館者数	0	0	131	150	0	0	158	0	39	22	23	0	523	550	
	小学校	学校数	14	21	28	9	2	9	8	0	0	0	1	2	94	88	
		入館者数	778	789	1,480	284	91	666	469	0	0	0	67	50	4,674	4,817	
	中学校	学校数	1	3	2	2	2	2	2	2	2	1	5	0	24	7	
		入館者数	176	356	76	59	73	23	21	22	18	11	23	0	858	512	
	高等学校	学校数	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1	7	4	
		入館者数	0	0	31	13	60	0	31	37	0	0	32	6	210	94	
	養護学校	学校数	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	
		入館者数	0	53	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	76	31	
	大学	学校数	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	5	5	
		入館者数	0	11	0	0	70	83	0	0	0	0	12	0	176	157	
	小中高PTA (保護者のみ)	学校数	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	
		入館者数	0	0	0	22	0	0	0	24	0	0	0	0	46	75	
	小中高PTA (親子レク等)	学校数	0	1	5	2	1	2	0	3	1	0	0	0	8	16	
入館者数		0	41	401	80	59	178	0	172	88	0	0	0	1,019	1,044		
生涯学習関係	研究会	会数	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	5	8		
		入館者数	0	0	0	0	0	123	91	0	0	0	0	214	380		
	子ども会	会数	2	0	1	10	1	0	1	1	2	0	0	1	19	10	
		入館者数	22	0	26	524	55	0	37	89	92	0	0	25	870	355	
	公民館等	館数	1	1	4	5	3	3	3	7	1	0	2	0	30	29	
		入館者数	26	16	99	206	58	57	53	199	24	0	44	0	782	937	
社会福祉関係	福祉施設	団体数	1	2	3	0	1	1	3	0	0	0	0	1	12	6	
	デイケアサービス	入館者数	13	65	95	0	29	38	58	0	0	0	0	19	317	115	
文化団体関係	資料館等	館数	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	6	
		入館者数	0	60	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	90	95	
	歴史研究	団体数	3	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	9	5	
		入館者数	68	46	10	0	0	0	10	7	0	0	0	22	163	171	
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数	0	0	0	3	1	1	0	2	1	0	0	8	21		
		入館者数	0	0	0	90	21	38	0	18	30	0	0	0	197	783	
その他	その他	団体数	4	9	16	8	4	8	21	13	7	5	4	11	110	169	
		入館者数	75	267	721	170	150	256	395	223	145	99	100	180	2,781	4,065	
合計	団体数	26	43	62	43	18	31	46	31	15	7	15	17	354	388		
	団体入館者数	1,158	1,704	3,070	1,598	666	1,492	1,346	791	436	132	301	302	12,996	14,181		
総入館者数		2,759	3,919	4,656	3,840	3,736	2,682	3,110	2,231	1,549	1,005	1,671	1,849	33,007	34,235		
団体利用者の割合		41.97%	43.48%	65.94%	41.61%	17.83%	55.63%	43.28%	3.545%	28.15%	13.13%	18.01%	16.33%	39.37%	41.42%		

団体利用状況

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) ビル管理業務／常光サービス(株)
- (2) 警備業務／福島総合警備保障(株)
- (3) 植栽管理業務／(有)永野造園
- (4) 空調設備点検業務／山田設備工業(株)
- (5) 消防設備等保守点検業務／大槻電気通信(株)
- (6) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務／三進金属工業(株)
- (7) 自動ドア保全業務／昭和建産福島販売(株)
- (8) 自家用電気工作物保安管理業務／(財)

東北電気保安協会福島事業部

- (9) 展示用及び講堂用 A V 機器保守点検業務／大槻電気通信(株)

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 一般・特別展示室防火ドア制御装置修理／20年6月9日
- (2) 一般展示室配線ダクト修理／20年10月6日
- (3) 自家発電設備蓄電池交換／20年12月3日
- (4) 屋外展示造形物（縄文時代の家、前方後円墳、平安時代の製鉄炉、室町時代の館）の修繕／21年3月3日

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	合 計
一般収蔵庫	40,434	2,792	850	514	44,590
特別収蔵庫	457				457
合 計	40,891	2,792	850	514	45,047

※ 1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※ 2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
20080401～20090331	株式会社日本フットボールヴィレッジ(常設展示)	檜葉町美シ森 B 遺跡出土弥生土器	3
20080401～20090331	福島県立博物館(常設展示)	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1025
20080401～20090331	須賀川市立博物館(常設展示)	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
20080401～20090331	東北電力株式会社原町火力発電所(常設展示)	南相馬市鳥打沢 A 遺跡出土土師器・須恵器・羽口ほか	24
20080401～20090331	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館(常設展示)	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
20080401～20090331	独立行政法人国立科学博物館(常設展示)	飯館村日向南遺跡ほか出土縄文土器	8
20080617～20081017	福島県立博物館(企画展「宝の山2008」)	法正尻遺跡出土縄文土器ほか	60
20080717～20090327	東京国立博物館(考古相互貸借事業)	矢吹町弘法山古墳群出土大刀ほか	18
20080905～20091213	石川町教育委員会(「まほろん所蔵の石川町出土考古資料展」)	石川町七郎内 C 遺跡出土琥珀玉ほか	113
20081031～20090224	財団法人福島県文化振興事業団(発掘調査における接合確認)	南相馬市萩原遺跡出土旧石器ほか	30
20090107～20090130	財団法人郡山市文化・学び振興公社(文化財企画展「わが町の遺跡自慢」)	郡山市高林遺跡出土土師器ほか	5
20090107～20090206	財団法人福島県文化振興事業団(企画展「“天地人”の時代」)	会津若松市神指城跡出土漆器ほか	57
20090113～20090331	郡山市教育委員会(大安場史跡公園にて常設展示)	郡山市弥明遺跡出土土器	5
20090116～20090331	文化庁(重要文化財の新指定に係る調査)	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	285
		合 計	1637

(2) 模型及びレプリカ

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
20080704～20080807	財団法人郡山市文化・学び振興公社(文化財企画展「七ツ池遺跡出土二彩浄瓶と古代の郡山」)	正倉補修用軒丸瓦ほか	17
20080704～20080330	仙台市富沢遺跡保存館(特別企画展「陸奥国大戦争時代」)	多賀城に向かう軍団兵士模型ほか	4
20080804～20080826	竹駒神社(横笛の比較研究)	横笛復元品の演奏記録	1
20080812～20080826	竹駒神社(横笛の比較研究)	横笛復元品	1
20081114～20081212	下郷町教育委員会(授業に利用)	打製石斧復元品ほか	3
20081209～20090327	東京国立博物館(考古相互貸借事業)	古墳時代の馬復元品と馬具復元品	24
20081223～20090109	株式会社プロダクション・アイジー(劇場用映画『宮本武蔵』に掲載)	弩復元品写真ほか	2
20090329～20090331	財団法人郡山市文化・学び振興公社(大安場史跡公園オープンイベント等の煮炊き実演)	土師器長胴甕復元品	2
		合 計	54

3. 写真掲載等承認

承認日	申請者(掲載刊行物等)	資 料 名	数量
20080409	青森県環境生活部(『青森県史資料編古代 2 出土文字資料』)	郡山市鳴神・柿内戸遺跡出土土師器写真ほか	67
20080409	国立科学博物館(常設展解説書)	須賀川市一斗内遺跡出土縄文土器写真ほか	3
20080415	矢巾町教育委員会(「よみがえる木製甕」展パネル)	弓を射る白河軍団兵士模型写真	1
20080503	白河税務署(教科書副教材『わたしたちのくらしと税金』)	野外展示「縄文時代の家」写真ほか	2
20080529	須賀川市教育委員会(須賀川市ふるさと読本『わたしたちの須賀川』)	縄文時代の石器復元品写真ほか	3
20080611	仙台市富沢遺跡保存館(特別展「陸奥国大戦争時代 ―蝦夷と移民―」図録ほか)	弓を射る白河軍団兵士模型写真	1
20080611	仙台市富沢遺跡保存館(特別展「陸奥国大戦争時代 ―蝦夷と移民―」図録ほか)	多賀城に向かう白河軍団兵士模型写真ほか	4
20080612	福島県立博物館(企画展「宝の山2008―磐梯山をめぐる人と自然」図録ほか)	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器写真ほか	13
20080701	財団法人郡山市文化・学び振興公社(企画展「七ツ池遺跡出土二彩浄瓶と古代の郡山」パネル)	多賀城に向かう白河軍団兵士模型写真ほか	5
20080701	株式会社郷土出版社(『会津ふるさと大百科』)	西会津町塩喰岩陰遺跡出土遺物実測図	15
20080831	石川町教育委員会(企画展「まほろん所蔵の石川町出土考古資料展」パネルほか)	石川町七郎内 C 遺跡遺物出土状況写真ほか	23
20080904	株式会社帝国書院(『中学校スタンダード歴史資料(福島県版)』)	文化財センター白河館外観写真	1
20080925	株式会社フクト(『学力到達度診断シート 1 学年用』)	銅鏡復元品写真	1
20081001	株式会社帝国書院(『中学校スタンダード歴史資料(福島県版)』)	泉崎村関和久遺跡掘立柱建物跡写真	1
20081001	相馬市教育委員会(『広報そうま』11月1日号)	相馬市段ノ原 B 遺跡地割れ痕写真ほか	4
20081014	株式会社ロム・インターナショナル(『図説 直江兼統』)	会津若松市神指城跡石垣写真	1
20081025	小美玉市玉里史料館(参考展示「南関東との交流」パネル)	檜葉町美シ森 B 遺跡竪穴住居跡写真	1
20081029	株式会社山川出版社(日本史リブレット72『古代東国の石碑』)	多賀城に向かう白河軍団兵士模型写真ほか	1
20081113	韓国放送公社(テレビ番組『韓国史伝』)	弩復元品	3
20081119	文化庁(『土偶展』図録ほか)	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	4
20081126	至文堂(『日本の美術』第515号)	飯館村羽白 C 遺跡出土土版写真	1
20081126	株式会社プロダクション・アイジー(劇場用映画『宮本武蔵』)	弩復元品写真ほか	2

第3章 管理業務の実施および利用状況

承認日	申請者(掲載刊行物等)	資 料 名	数量
20081128	長岡市教育委員会(展示パネル)	会津若松市神指城跡遠景写真	1
20081220	会津若松市秘書広聴課(会津若松市史DVD版『会津の歴史』)	会津美里町青宮西遺跡出土縄文土器写真ほか	6
20081220	カズ企画(『日本の歴史』第1巻)	常設展示「古墳時代ブース」写真ほか	2
20090107	財団法人郡山市文化・学び振興公社(展示パンフレット「わが町の遺跡自慢」ほか)	郡山市高林遺跡全景写真ほか	3
20090107	財団法人福島県文化振興事業団(企画展「天地人の時代」パネルほか)	会津若松市神指城跡石垣写真ほか	9
20090110	財団法人福島県教育会館(福島県『夏休みの友』)	常設展示「昭和40年代ブース」写真ほか	2
20090110	財団法人郡山市文化・学び振興公社(大安場史跡公園ガイダンス施設展示パネルほか)	常設展示「古墳時代ブース」写真ほか	2
20090115	株式会社新泉社(シリーズ遺跡を学ぶ55巻『和台遺跡』)	復元複式炉による燃焼実験写真	1
20090121	財団法人郡山市文化・学び振興公社(大安場史跡公園ガイダンス施設展示パネルほか)	古代の馬と馬具復元品写真	1
20090130	株式会社郷土出版社(『決定版 石見ふるさと大百科』)	弩復元品写真	1
20090206	条里制・古代都市研究会(『日本古代の郡衙遺跡』)	泉崎村関和久遺跡掘立柱建物跡写真	1
20090210	歴史春秋出版株式会社(『南奥の古代通史』)	玉川村江平遺跡出土木簡実測図ほか	2
20090219	新白河広域観光連盟(『新白河羅針盤』外国語版)	野外展示「縄文時代の家」写真ほか	3
20090228	福島市教育委員会(『福島市の遺跡2』)	福島市弓手原A遺跡遠景写真ほか	3
20090325	財団法人福島県文化振興事業団(『福島県歴史資料館研究紀要31号』)	会津若松市神指城跡内堀跡写真	1
20090331	南相馬市教育委員会(『泉庵寺跡―遺跡が語る古代のみなみそうまー』)	南相馬市大船迫A遺跡15号製鉄炉全景写真ほか	4
		合 計	199

4. 資料閲覧

(1) 遺 物

閲覧日	閲覧者(閲覧目的)	資 料 名	数量(点)
20080422	下郷町教育委員会(体験学習事業実施のため)	弓矢復元品ほか	8
20080520	福島県立博物館職員(展示の事前調査)	磐梯町法正尻遺跡ほか出土縄文土器・土製品・石器	55
20080702	栃木県立博物館職員(展示の事前調査)	広野町折木遺跡ほか出土旧石器	621
20080812	竹駒神社神職(演奏の参考のため)	玉川村江平遺跡出土笛	1
20080817	財団法人福島県文化振興事業団職員(報告書作成のため)	檜葉町大谷上ノ原遺跡出土旧石器	164
20080822	石川町教育委員会職員(展示の事前調査)	石川町七郎内C遺跡ほか出土縄文土器ほか	182
20081018	財団法人福島県文化振興事業団職員(報告書作成のため)	南相馬市萩原遺跡出土旧石器	17
20081019	たたら研究会(古代製鉄研究のため)	南相馬市鳥沢A遺跡ほか出土製鉄関連遺物	37
20081019	たたら研究会(古代製鉄研究のため)	製鉄実験資料	1
20081107	財団法人福島県文化振興事業団職員(報告書作成のため)	南相馬市萩原遺跡出土旧石器	4
20081107	県内研究者(個人研究)	会津坂下町能登遺跡出土弥生土器	6
20081120	県内大学院生(修士論文作成のため)	三春町柴原A遺跡ほか出土土偶	115
20081127	県外研究者(個人研究)	郡山市徳定A遺跡出土弥生土器	9
20081130	県外研究者(個人研究)	石川町七郎内C遺跡ほか出土縄文土器	52
20081207	財団法人交野市文化財事業団職員(古代製鉄研究のため)	新地町向田E遺跡ほか出土製鉄関連遺物	37
20081207	財団法人交野市文化財事業団職員(古代製鉄研究のため)	製鉄実験資料	1
20090107	県内大学院生(修士論文作成のため)	会津坂下町能登遺跡ほか出土弥生土器	18
20090118	県外研究者(個人研究)	大猿田遺跡ほか出土木製品ほか	409
20090118	南相馬市教育委員会職員(報告書作成のため)	相馬市善光寺遺跡ほか出土須恵器	65
20090118	県外研究者(個人研究)	白河市筑内古墳群ほか出土須恵器	6
20090207	県外研究者(個人研究)	須賀川市一斗内遺跡ほか出土縄文土器	64
20090313	長岡市立科学博物館職員(展示の事前調査)	磐梯町法正尻遺跡ほか出土縄文土器・土製品	81
20090314	県外研究者(個人研究)	郡山市正直A遺跡出土土師器	50
20090315	県外研究者(個人研究)	会津美里町鹿島遺跡ほか出土石器	75
20090326	八戸市博物館職員(展示の事前調査)	石川町七郎内C遺跡ほか出土土偶	22
		合 計	2100

(2) その他

閲覧日	閲覧者(閲覧目的)	資 料 名	数量(点)
20080422	下郷町教育委員会(町内遺跡管理のため)	遺物台帳様式	1
20080427	県内研究者(個人研究)	磐梯町法正尻遺跡出土土器写真	1
20080824	県内研究者(個人研究)	『大熊町史』ほか	8
20081003	県内研究者(個人研究)	『玉川村史』追録1・2	2
20081026	まほろんボランティア(土器製作の参考のため)	調査報告書『東北横断自動車道遺跡調査報告11』	1
20081107	県内研究者(個人研究)	調査報告書『東北横断自動車道遺跡調査報告10』	1
20090328	県内研究者(個人研究)	調査報告書『国営総合農地開発事業矢吹地区遺跡発掘調査報告9』ほか	2
		合 計	16

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「象徴展示」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
 - 〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
 - 〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
 - 〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
 - 〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
 - サブコーナー〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
 - サブコーナー〈話題の遺跡〉
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「しらかわ歴史名場面」
- ⑨映像展示
 - 「ふくしまの文化財ーいのちのかたちー」

(2) 展示替え



「みんなの研究ひろば」展示のようす

平成20年度の展示替えは、別表一覧の通りである。常設展示検討チームにより前年度中に作成した4カ年分の計画案をもとに、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容とした。

1) みんなの研究ひろば

◇猪苗代湖畔に消えた後期旧石器時代終末期の人々(会津若松市笹山原 No.27 遺跡)

学校法人石川高等学校考古学部の皆さんが中心となり、7年間の月日を費やして旧石器時代の遺跡である会津若松市笹山原 No.27 遺跡を踏査し、細石刃石器群を主体とする石器の採集とともに当時の人々のくらしぶりや環境について研究したものである。展示では、採集した石器の一部と研究内容をまとめた資料の複製を配置した。

コーナー	タイトル	開催期間	所有者	備考
みんなの研究広場	まほろんイベント 「古代の鉄づくり」報告	平成20年1月16日～ 平成21年3月31日	館蔵	
	弓矢づくりに挑戦!!	平成20年1月16日～ 平成20年7月31日	相馬翔伍さん	
	石包丁づくり	平成20年2月1日～ 平成20年9月27日	第7期森の塾生	
	猪苗代湖畔に消えた 後期旧石器時代終末期の人々	平成20年9月27日～ 平成21年3月31日	学校法人石川高等学校・石川義塾 中学校考古学部の皆さん	平成21年度も継続
話題の遺跡	泉崎横穴	平成18年11月17日～ 平成20年9月25日		*パネル展示
	「油田遺跡」 ー弥生時代初期の墓制ー	平成20年9月25日～ 平成21年3月31日	会津美里町教育委員会	平成21年度も継続
しらかわ 歴史名場面	まほろんから見える遺跡 「芳野遺跡」	平成19年3月28日～ 平成20年5月20日		*パネル展示
	国指定史跡 白河舟田・本沼遺跡群 「下総塚古墳」	平成20年5月20日～ 平成20年11月11日	白河市教育委員会	
	国指定史跡 白河舟田・本沼遺跡群 「舟田中道遺跡」	平成20年11月11日～ 平成21年3月31日	白河市教育委員会	平成21年度も継続

常設展の展示替え一覧



「話題の遺跡」展示のようす

なお、この研究は、展示期間中に奈良大学主催の「全国高校生歴史フォーラム 2008」で優秀賞を受賞しており、内外より高い評価を得られている。

2) 話題の遺跡

◇ 油田遺跡―弥生時代初期の墓制―

まほろん夏のとんじ「ふくしまの重要文化財Ⅵ―考古資料：石川町烏内遺跡―」に関連して、会津美里町油田遺跡の展示を行った。油田遺跡からは、再葬墓に代表される弥生時代初期の墓制の良好な資料が確認されており、県内の他地域の資料を比較しながら理解を深めてもらうことを意図したものである。

3) しらかわ歴史名場面

◇ 国指定史跡白河舟田・本沼遺跡群 「下総塚古墳」 「舟田中道遺跡」

白河舟田・本沼遺跡群は、古代白河郡の成立への地方豪族の関与を辿れる貴重な事例として、平成17年に国指定史跡に登録されている。そこで、遺跡群の白河市下総塚古墳、同市舟田中道遺跡を取り上げ、期間を分けて展示を行った。展示期間中には、同地域より白河市野地久保古墳の調査成果が公開されたこともあり、来館者の関心も高かったようだ。

(3) 展示資料の破損等

近年、常設展示室内の造形物は来館者の接触が原因となる破損が目立っており、今後対策が必要である。また、経年変化による不具合が生じており、計画的な対処が必要である。

◆めぐみの森

植物造形物のうち、来館者の接触によってクマザサ数10点が折損しており、元の形状への

復旧作業を行った。悪質なものはジオラマの奥まで入りこまれ、根元から引き抜かれていた。また、ジオラマの地面を覆う落ち葉のストックが減少しているため、次年度以降に補充する必要がある。

◆暮らしをささえた道具たち

来館者の故意による接触で、ジオラマ「古代の製鉄のようす」および「遺跡を掘る」では数カ所にわたり損壊が認められた。特に損壊の著しかった人形2体については修復を施し、元の形状に復旧した。

(4) メンテナンス

平成20年度の常設展造形・造作物のメンテナンスはノムラテクノ(株)に委託し、ジオラマの点検、清掃および展示装置全般の点検を行った。

2. 企画展示

(1) まほろん夏のとんじ

「金の冠 鉄のかぶと ―東京国立博物館収蔵資料に見るふくしまの古墳時代―」

会期:平成20年7月26日(土)～8月31日(日)

(休館日を除いた36日間)

1) 趣旨

まほろん夏のとんじは、独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館で行っている「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」により実施した。この事業は、考古資料を相互に貸借し、展示公開によって考古資料の有効活用をはかるものである。今回、東京国立博物館から借用した資料は、これまで県内で公開される機会が少なかった6古墳の出土遺物である。なお、これ



「しらかわ歴史名場面」展示のようす



夏のてんじのようす（金冠塚古墳出土遺物）

らの資料は、いずれも戦前から戦後間もない時期に発掘調査された資料である。そのため、調査時の様子や副葬品の出土状況などがわかる貴重な写真や記録とともに、福島県の考古学の足跡を振り返ることができる展覧会とした。

2) 展示の構成と内容

展示資料は、いわき市金冠塚古墳、同市の後田古墳、大志田古墳、細谷遺跡、福島市浜井場古墳群、相馬市高松古墳群から出土した遺物である。金冠塚古墳は、金銅製飾金具・鉄製冑・骨鏃・土器など、後田古墳は土製釧、細谷遺跡は玉類、大志田古墳は環頭柄頭・玉類、浜井場古墳群は青銅製鈴釧・勾玉、高松古墳群は青銅製馬鈴・土器・玉類を展示した。

なお、金冠塚古墳の展示資料には、東京国立博物館の他、福島県立博物館から借用した遺物もあった。今回の展示は、両館収蔵の資料が一堂に会した初めての展示となった。

展示室の西壁周辺には、金冠塚古墳の横穴式石室の大きさが実感できるよう、実物大の75%の大きさのパネルを展示した。パネルは壁面だけでなく、床面にも設置し、副葬品の出土位置がわかるよう工夫した。

また、金冠塚古墳から出土した冠や冑を、ウレタンなどの現代の素材で復元し、見学者の方々に自由に被っていただく体験コーナーを展示室の東壁周辺に設置した。

3) 記念講演会

日時：平成20年8月3日（日）

午後1時30分～3時30分

講師：馬目順一氏（早稲田大学考古学会副会長）

演題：勿来金冠塚古墳といわきの後期古墳

内容：今回の展示の目玉である金冠塚古墳出土の金銅製飾金具や、いわき市の後期古墳に関して、講師の豊富な発掘調査や研究を踏まえた幅広い視点で講演いただいた。参加者は24名。

4) 成果と反省

本企画展期間中の入館者総数は4,800人、開催期間中の一日平均入館者数は133人である。

展示期間中、福島市やいわき市の方が見学された際は、自分の住んでいる近くに古墳があることを知り、感慨深い様子であった。

体験コーナーは好評で、冠や冑を被って記念撮影をする方が多かった。ただ、特別展示室内での写真撮影はお断りしているため、その都度展示室外に出ていただいた。記念撮影はその場で行いたいと考えるのが普通であり、今後同様のコーナーを設ける際は、改善が必要である。



夏のてんじのようす（横穴式石室模型）

（2）まほろん秋のてんじ

「ふくしまの重要文化財Ⅵー考古資料：石川町鳥内遺跡ー」

会期：平成20年10月4日（土）～12月7日（日）

（休館日を除いた57日間）

1) 趣旨

平成14年度より「ふくしまの重要文化財」シリーズとして、福島県指定の重要文化財（考古学関係資料）を紹介する企画展を開催している。今回はシリーズ第6弾として、県指定史跡である石川町鳥内遺跡を取り上げ、本県の弥生時代初期の再葬墓群から出土した弥生土器群（県指定重要文化財）の特徴を紹介する。



秋のてんじのようす

2) 展示の構成と内容

展示資料は、石川町鳥内遺跡の土坑から出土した弥生土器が中心となるが、関連資料として須賀川市牡丹平遺跡出土の弥生土器および人骨をあわせて展示した。

①「鳥内遺跡の概要」

場所や調査成果についての紹介

②「18号土坑について」

調査の状況の写真パネルと出土土器の紹介

③「19号土坑について」

調査の状況の写真パネルと出土土器の紹介

④「その他の土坑と土器」

調査の状況の写真パネルと各時期の出土土器の紹介

⑤「再葬墓とは」

再葬墓の概要（分布や特徴）パネルと再葬された牡丹平遺跡出土の人骨の紹介

⑥「福島県内の主な再葬墓」

再葬墓の写真と概要について、パネルでの展示紹介

3) 成果と反省

遺跡名	遺物名	点数
石川町 鳥内遺跡	弥生土器鉢	6点
	弥生土器壺	26点
	弥生土器人面付壺	1点
須賀川市 牡丹平遺跡	弥生土器壺 人骨(弥生時代)	1点 —

展示資料一覧

展示期間中の入館者総数は5,928人で、1日平均の入館者数は約104人である。展示を目的に、遺跡の所在する地域の方々にも足を運んでいただいた。

今回の展示は、観覧者の方々に生の展示資料と向き合ってもらうことを意図し、解説パネルの文字量を抑えるなど簡略化に努め、不足分は職員の解説によって補うこととした。その一方で、展示室入口の部分に当館職員が製作した復元土器を配置し、展示の後半部分には遺跡のミニチュア模型を展示するなど展示内容への理解に工夫を凝らした。



ミニチュア模型のようす

(3) まほろん春のてんじ

「新編陸奥国風土記 巻之七 信夫郡」

会期:平成21年3月14日(土)～5月17日(日)

(休館日を除いた56日間)

1) 趣 旨

まほろん春のてんじの題名となっている『風土記』は、古代の国内各地における土地の様子を記した書物であるが、「陸奥国」と呼ばれた東北地方の『風土記』は逸文以外には現存しない。

まほろんでは、収蔵されている考古資料などを通して、県内各地域の歴史や当時の人々の営みを復元し、新たな風土記の世界を『新編陸奥国風土記』として紹介している。

巻之七となる今回は、福島市内を対象地域とした「信夫郡」について縄文時代から平安時代の遺跡で見つかった数々の出土資料から、当時人々の生活を紹介した。



春のてんじのようす

2) 内 容

縄文時代から平安時代以降の時系列に沿って五つのコーナーに分け、当館収蔵の考古資料や写真パネルをもとに展示構成を行った。

なお、当館収蔵資料が希薄な時期については、福島市教育委員会から勝口前畑遺跡、台畑遺跡、腰浜廃寺跡、南諏訪原遺跡、月ノ輪山1号墳、北五老内遺跡、福島県立博物館からは福島信夫山出土品、腰浜廃寺跡の出土資料や記録写真を借用し展示した。

①「めぐみの森のムラ」

獅子内遺跡、弓手原A遺跡などの縄文土器や石器などから、摺上川上流域の豊かな自然の中で暮っていた縄文時代の人々の暮らしを紹介。

②「縄文の伝統と新しい文化」

孫六橋遺跡などから出土した資料から、縄文



春のてんじポスター

時代の伝統を受け継ぎながら、新たな文化を取り入れた弥生の人々の営みを紹介。

また、勝口前畑遺跡出土の勾玉製作資料を展示し、弥生時代の勾玉づくりについて紹介した。

③「有力者が眠る丘」

東北地方最大規模の横穴式石室を持ち、頭稚大刀が出土した月ノ輪山1号墳のパネル展示から、大和朝廷と結びつきを持った有力者が当地域に現れたことを紹介した。

④「信夫郡の幕開け」

多量の焼米が見つかった北五老内遺跡や腰浜廃寺跡など信夫郡役所に関連する遺跡について記録写真や出土品を紹介。

また、御山千軒遺跡から見つかった多くの木製品を展示し、平安時代の人々の暮らしや水辺の祭祀について紹介した。

⑤「信夫の人々を見守る山」

県重要文化財に指定されている平安時代から鎌倉・室町時代の鏡や仏具、馬具を展示し、古代から現在まで信夫の地のシンボルでもある信夫山について紹介した。

3) 成果と反省

本会期中の入館者数は5,582人、平均99.6人だった。

会期中、信夫郡の対象地域福島市内からの観覧者も見られ、対応できる場合は展示解説も行った。アンケートなどには、職員の展示解説により、展示を分かりやすく見ることが出来たとの意見も多い。展示解説については、今回内覧会のみであったため、職員の展示解説などは会期中に定期的に行う必要性を感じた。

(4) まほろん移動展

「考古学から探る古代会津—古墳・飛鳥・奈良・平安時代—」(新編陸奥国風土記 巻之五 会津・耶麻郡その二より)

会期：平成20年3月15日～5月11日

会場：福島県立博物館企画展示室

主催：福島県立博物館

共催：まほろん(福島県文化財センター)

観覧者数：10,392人(平成20年度観覧者)

1) 趣 旨

まほろんに保管している資料を地元に戻りさせることは、地域の歴史を掘り起こす契機と

遺 跡 名	資 料 名	点 数	所 蔵
獅子内	深鉢形土器	1	まほろん
	注口土器	1	まほろん
	石鏃	14	まほろん
	石槍	5	まほろん
	石匙	7	まほろん
	磨石	5	まほろん
	石皿	1	まほろん
	耳飾り(石製)	4	まほろん
	変わった形の石器	6	まほろん
弓手原A	深鉢形土器	2	まほろん
	注口土器	1	まほろん
	頁岩(石器の素材)	42	まほろん
	勾玉	1	まほろん
八方塚A	深鉢形土器	3	まほろん
	勾玉	1	まほろん
	耳飾り(土製)	1	まほろん
孫六橋	鉢形土器	2	まほろん
	蓋	1	まほろん
	石鏃	5	まほろん
	石匙	1	まほろん
	太型蛤刃石斧	1	まほろん
	扁平片刃石斧	1	まほろん
	ノミ形石斧	1	まほろん
勝口前畑	勾玉製作工程資料	24	福島市教育委員会
	敲石	2	福島市教育委員会
	擦り切り具	3	福島市教育委員会
	砥石	2	福島市教育委員会
	石針	2	福島市教育委員会
腰浜廃寺跡	軒丸瓦	1	福島市教育委員会
	文字瓦	1	福島市教育委員会
	軒丸瓦	1	福島市教育委員会
	軒平瓦	1	福島県立博物館
御山千軒	墨書土器	4	まほろん
	曲物(蓋)	1	まほろん
	曲物(身)	1	まほろん
	椀	1	まほろん
	ヨコツチ	1	まほろん
	ツチノコ	1	まほろん
	下駄	1	まほろん
	馬形	1	まほろん
	刀形	1	まほろん
南諏訪原	深鉢形土器片	1	福島市教育委員会
	墨書土器	3	福島市教育委員会
福島信夫山出土品	鏡	13	福島県立博物館
	仏具	7	福島県立博物館
	馬具	2	福島県立博物館
	建築金具	2	福島県立博物館
一ノ堰B(参考資料)	勾玉	2	まほろん

展示資料一覧（まほろん春のてんじ）

なるとともに、埋蔵文化財に対する理解が一層深まるものと期待されることから、まほろんで平成19年度に開催した「新編陸奥国風土記 卷之五 会津・耶麻郡その二」に福島県立博物館蔵資料や周辺市町村所蔵資料も含めた、拡大版まほろん移動展とする。

「会津大塚山古墳から幻と言われた会津郡衙まで、いにしへの古代会津が甦る」をテーマに大和政権の誕生から天皇を中心とする律令国家の成立と崩壊まで、時代のダイナミックなうねりが、まほろばの地「会津」までどのように押し寄せてきたのか、古代会津の姿を考古学から探る。

2) 展示の構成と紹介遺跡

プロローグ 古墳時代の幕開け

①大型古墳と鏡の時代（古墳時代前期）

会津若松市田村山古墳他

②謎の豪族居館と鍛冶のムラ（古墳時代中・後期） 会津坂下町中平遺跡他

③溝で囲うムラと崖に並ぶ横穴墓（古墳時代後期・飛鳥時代） 喜多方市古屋敷遺跡、会津若松市駒板新田横穴群

④姿を現した会津郡衙（奈良・平安時代） 会津若松市郡山遺跡他

⑤仏都会津の始まりと古代人の祈り（奈良・平安時代） 磐梯町慧日寺跡他

エピローグ 次なる時代へ

3) まほろん保管の展示資料

- ・会津若松市駒板新田横穴群出土須恵器・土師器・玉類・鉄製品・人骨
- ・会津若松市屋敷遺跡出土須恵器
- ・会津若松市上吉田出土須恵器・土師器

（5）ビデオ上映会

今回のビデオ上映会は、南相馬市小高地方に伝わる「箕作り」の映像を解説を交えて上映した。

また、民俗技術伝承の現状など、無形の文化財を取り巻く諸課題にも触れた。

「小高の箕づくり」

日時：平成21年1月15日（日）

講師：大山孝正主任学芸員

参加者：11人

3. 講演会・講習会

（1）館長講演会

平成20年度は、「もう二つの日本文化―北海道と南島の文化―」をテーマとして、年に6回の講演会を実施した。内容と参加人数は下記の通りである。

・4月22日（土）第1回「もう二つの日本文化とは」61人

・5月24日（土）第2回「“北の文化”成立」37人

・6月28日（土）第3回「“北の文化”展開」25人

・10月25日（土）第4回「“南の文化”成立と展開」35人

・11月22日（土）第5回「ボカシの地域とは」25人

・12月20日（土）第6回「グスクとチャシ」27人

（2）文化財講座

この講座は、福島県文化振興事業団に勤務する職員が手がけた担当遺跡を、スライドや出土遺物の実物を使ってわかりやすくお話しする講座である。今年度は、事業団の遺跡調査部の職員と、当館職員が1人ずつ担当した。

第1回「私が掘ったあの遺跡―会津―」

日時 2月14日

参加者 16人

第2回「私が掘ったあの遺跡―本宮市―」

日時 3月14日

参加者 13人

4. 体験学習

平成20年度に実施した体験学習プログラムとその実績は、以下の通りである。

（1）常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

体験活動室において、個人での来館者を対象とした体験学習メニューである。2週間ごとに、「勾玉・管玉づくり」に他のメニューを加えて実施した。

体験メニューについては、昨年度までの実施状況を踏まえて、季節や年間の当館の行事予

定を考慮しつつ4カ月単位での予定表を作成した。昨年度に見送った「アンギン編みに挑戦しよう」は、冬季の閑散期を利用して製品の持ち帰りが可能なメニューとして再編成した。また、材料費については体験者の実費負担として、いくつかのメニューで再検証を行った。

内 容	参加者数	内 容	参加者数
勾玉づくり	2,464人	火おこしに挑戦しよう	1,211人
管玉づくり	81人	土器をつくろう	41人
琥珀勾玉づくり	9人	(土器の)拓本に挑戦しよう	71人
ガラス玉をつくってみよう	339人	獸脚ろうそくづくり	45人
アンギン編みに挑戦しよう	30人	竹笛をつくろう	5人
時代衣装を着てみよう	380人	うぐいす笛づくり	96人
匂袋をつくってみよう	45人	昔の遊び(双六など)	109人
七夕飾りをつくろう	178人	毬杖であそぼう	29人
つるし雛をつくってみよう	63人		

体験活動室メニューの実施状況

2) 臨時の個人来館者対応の体験メニュー

ゴールデンウィークや小中学校の夏期休業期間、まほろんイベント等の実施日において、体験活動室メニューに加えて、個人来館者向けの体験メニューを実施した。

ゴールデンウィーク期間中の火おこし体験や、夏期休業期間中の弓矢・槍投げ体験は大変好評であった。

内 容	参加者数	内 容	参加者数
弓矢・やり投げ	1,515人	バックヤードツアー	464人
石臼できなこ挽き	86人	砂鉄選別	795人

臨時の個人来館者対応体験メニューの実施状況

3) 団体来館者対応の体験メニュー

事前に予約された団体来館者の方々には、いくつかの対応が可能な体験メニューを用意して実施した。

近年の傾向であるが、一般収蔵庫の見学とともに、収蔵される本物の土器に触れることのできる土器さわりの体験者数が伸びている。当

活動室計	8,056人	活動室比率	24.4%
団体計	13,673人	団体比率	41.4%
体験者合計	21,729人	体験者比率	65.8%
来館者数	33,007人		

体験者数内訳の合計と来館者数の比率



団体利用者の体験のようす

館が担う埋蔵文化財の啓蒙・普及活動の浸透として捉えられよう。

(2) 募集型体験メニュー

1) 実技講座

主としてモノを作ることによって古代の技術や文化財に対する理解を深めることを目的として行っている。定員は各講座の内容にあわせ、10～20名とし先着順とした。

	内 容	実施日	人数
1	土器づくり	5月17日	11名
2	土器の野焼き	6月14日	1名
3	鹿の角で装飾品づくり	6月29日	15名
4	カラムシから布をつくろう①	7月5日	20名
5	カラムシから布をつくろう②	7月19日	17名
6	親子で縄文土器づくり	7月26・27日	43名
7	親子で土笛づくり	8月2日	11名
8	古代の染色にちょうせん	8月9日	25名
9	土器・土笛の野焼き	8月23日	12名
10	カラムシから布をつくろう③	9月6日	10名
11	石庖丁づくり	9月27日	3名
12	埴輪づくり	10月12日	13名
13	埴輪を焼く	11月23日	26名
14	古代のガラス技術にふれよう	11月29日	14名
15	凧づくり	12月13日	11名
16	土器づくり上級編①	1月17・18日	16名
17	土器づくり上級編②	1月24・25日	16名
18	まっ茶茶碗をつくろう①	2月8日	15名
19	まっ茶茶碗をつくろう②	2月15日	15名
20	古銭づくり	3月8日	18名
21	土器の野焼き上級編	3月14日	25名

実技講座実施状況



「土器づくり上級編」のようす

今年度は、月1～数回程度の17講座21回を開講した。募集締切日を設け受講者の募集を開始し、年間を通して募集定員を上回る人数が集まった。

継続して実施している「まっ茶茶碗をつくろう」「土器づくり上級編」などは、募集締切日前に定員に達するなど、大好評であった。また「親子で縄文土器づくり」「古銭づくり」も多く方に参加いただいた。今年度は「親子で」を冠した実技講座を実施したところ、親子に限らず祖父母と孫といった組み合わせの参加者があり、ほほえましかった。

実技講座については、単にモノを作るだけでなく、技術やその歴史性について学習する場を提供できるように、指導する職員の技術向上と新たなメニューの提供をめざし、創意工夫を重ねていきたい。

2) まほろんイベント

まほろんイベントは、館の業務や文化財に関心を抱いてもらい、来館者の幅を広げ、集客アップを目的として行っているものである。今年

	内 容	実施日	人数
1	昔話を聞こう	5月5日	132名
2	開館7周年記念イベント	7月12・13日	716名
3	史跡見学ツアー(那須編)	9月20日	19名
4	まほろんを描こう	10月4・5日	35名
5	古代の鍛冶体験	11月1・2日	32名
6	餅つき大会	12月7日	120名
7	第5回双六大会	1月10日	11名
8	まほろん冬まつり	2月15日	422名
9	雛まつり	3月1日	126名

まほろんイベント実施状況



「第5回双六大会」のようす

度は新たに、「まほろん冬まつり」を実施した。

①昔話を聞こう

団体ボランティア「しらかわ語りの会」の協力を得て実施した。

②開館7周年記念イベント

弓矢・槍投げ・火おこしからなる「まほりんピック」、鹿角製釣り針を用いた「古代の魚釣りに挑戦」といったブースを用意して実施した。

③史跡見学ツアー(那須編)

栃木県立なす風土記の丘資料館、下侍塚古墳、那須官衙跡などを見学した。

④まほろんを描こう

作品はエントランスホールに展示し、来館者の投票によって優秀作品を決定し表彰した。

⑤古代の鍛冶体験

火で赤めた鉄を鎚で叩く鍛冶作業を体験した。平成19年度の「古代の鉄づくり」で産出した鉄を用い、古代の「蔵手刀」をモデルとしたペーパーナイフを作成した。

⑥餅つき大会

竪杵・横杵を用いた餅つきを行った。同日、ボランティアイベント「まほろん祭り ボランティア2008」、アクアマリンふくしま「移動水族館がやってくる」も実施し、多くの来館者でにぎわった。

⑦第5回双六大会

盤双六の大会を実施。トーナメント及び巴戦により、まほろんカップ争奪戦を行った。

⑧まほろん冬まつり

今年度、新規に実施した。竹籤付の弓矢を用いた「縄文射的」、直江兼続の兜をモデルとしたペーパークラフト「愛のかぶとづくり」、「カ

ラムシの笛づくり」など、さまざまなブースを用意して実施した。

⑨雛祭り

雛祭りの歴史の話、つるし雛づくりなどを実施。参加者には雛あられと桃の花をプレゼントした。

3) まほろん森の塾

小学4年生から中学3年生までの塾生を募集し、これまでまほろんが培ってきた技術や経験をもとに、昔の暮らし・技術を体験し、自らが生きる力を身につけることを目的として実施している。今年度は「縄文時代」をテーマとし、8回実施した。「カラムシから糸をつくろう」

	内 容	実施日	人数
1	結団式とオリエンテーション	4月12日	33名
2	縄文土器づくり	5月10日	14名
3	弓矢体験矢づくりとお泊り会	6月14・15日	30名
4	カラムシから糸をつくろう	8月10日	7名
5	縄文アクセサリーづくり	9月28日	13名
6	石匙づくり	10月4日	15名
7	ミニ複式炉をつくろう	10月25日	13名
8	縄文クッキーづくりと解団式	11月8日	14名

まほろん森の塾実施状況



「カラムシから糸をつくろう」のようす

の中で行った染色体験の活動成果は、常設展「みんなの研究ひろば」にて紹介した。

(3) 館外体験学習支援事業

「おでかけまほろん」

本事業は通称「おでかけまほろん」と呼ばれ、当館職員が学校や公民館等の教育機関に出向き、日頃の学習では味わえない臨場感のある地域の歴史や古代の人々の暮らしや知恵・技術に



おでかけまほろんのようす（鏡石第二小学校）

ついて体験学習を通して学ぶものである。当館が開館した平成13年度から実施されている。

平成20年度は、前期（4月～7月）に10校2館、中期（9月～11月）に6校、後期（12月）に1校1館の計17校、3館で実施した。

実施月については、社会科で歴史を学ぶ時期の4～5月に集中し、全体の1/3を占める。

参加者数は694名で人数は減少しているが、これは前年度と同様に募集校数の減数ではなく、小規模校での応募が多かったためである。

地域別にみると、会津地方が4カ所、中通り地方が14カ所、浜通り地方が2カ所である。

地域的には、今までと同様に中通り地方の学校が半数以上を占める。今後の課題として、会津、浜通り地方の「おでかけまほろん」実施校拡大があげられる。

利用形態では、6年生の社会科の授業として利用する例が多かったが、昨年度からは公民館活動の一環として、「火おこし」などの古代技術体験や「土器さわり」を通して参加児童に地域の歴史を身近に学んでもらう目的で利用する施設も増加傾向にある。このため、学校と公民館等への「館外体験学習支援事業」を個別に分けて対応する必要がある。

体験内容では、「土器さわり」「火おこし」「勾玉づくり」「弓矢」を行った。

「おでかけまほろん」は、先生が主体となって授業を進めるなかで、当館職員が専門的な事柄を解説する「連携コース」と当館職員が体験活動を進めていく「まほろんコース」がある。

事業開始から今年度までの「おでかけまほろん」の内容は、「まほろんコース」が大半であ

	団 体 名	学年・科目	体 験 内 容	実施日	人数
1	喜多方市立山都第三小学校	2・3・4・6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、弓矢体験	4月16日	7名
2	田村市立船引南小学校	6年、社会科	弓矢体験	4月23日	35名
3	石川町立母畑小学校	6年、社会科	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験	4月25日	8名
4	平田村立蓬田小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、弓矢体験	4月30日	37名
5	伊達市立山舟生小学校	5・6年生、社会科	勾玉づくり	5月1日	12名
6	郡山市立小山田小学校	6年、社会科	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験、勾玉づくり	5月15日	97名
7	伊達市立泉原小学校	5・6年生、社会科	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験、弓矢体験	5月28日	10名
8	本宮市立和田小学校	6年、社会科	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験、弓矢体験、勾玉づくり	6月15日	17名
9	福島市立平田小学校	3・4年、総合	勾玉づくり	6月18日	36名
10	福島市信陵学習センター	3～6年	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験、弓矢体験	7月22日	25名
11	会津若松市北会津公民館	1～6年生	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験、弓矢体験、勾玉づくり	7月23日	19名
12	金山町金山公民館	1～6年生	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験、弓矢体験	7月25日	30名
13	伊達市堰本小学校	4～6年、社会科	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験、弓矢体験、勾玉づくり	9月2日	122名
14	昭和村立昭和小学校	5・6年生、社会科	縄文時代の道具に触れる、勾玉づくり	9月11日	15名
15	鏡石町立鏡石第二小学校	4～6年生、総合	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験、弓矢体験、勾玉づくり	9月25日	85名
16	いわき市立久之浜第二小学校	5・6年生、社会科	火おこし体験、勾玉づくり	9月30日	16名
17	三春町立中妻小学校	6年、社会科	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験	10月3日	13名
18	玉川村立玉川第一小学校	6年、社会科	火おこし体験、弓矢体験	10月8日	37名
19	南相馬市立鹿島小学校	6年、社会科	火おこし体験、弓矢体験	12月5日	52名
20	福島市信夫学習センター	1～6年生	縄文時代の道具に触れる、火おこし体験	12月26日	21名

おでかけまほろん実施状況

る。今後は、本事業の趣旨でもある「連携コース」を出来るだけ多くの学校で実施するよう努力したい。

また、今年度より当館に収蔵されている資料を出土した地域の公民館などの生涯学習施設に展示し、地域の皆さんが身近に出土資料に接していただき、併せて体験学習を経験することが出来る「まるとまほろん」を飯館村公民館と会津若松市北会津公民館で実施した。

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

4月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は45,363件で、月平均

	月間アクセス数	累積アクセス数
4月	4,211	275,372
5月	4,655	280,027
6月	4,458	284,485
7月	4,000	288,485
8月	3,937	292,422
9月	3,386	295,808
10月	3,970	299,778
11月	3,449	303,227
12月	3,323	306,550
1月	3,437	309,987
2月	3,134	313,121
3月	3,403	316,524
合計	45,363	

ホームページのアクセス数一覧



携帯サイトのように

3,780件となっている。年度ベースでは昨年度よりも1,532件増加している。

月別のアクセス件数を見ると、4～7月が4,000件を超えるなど、上半期のアクセスが多い。また、累計アクセス数は、11月の段階で300,000件を超えた。

2. データベースによる情報提供

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	写真	文献
4月	27,971	5,417	12,853	4,135	5,566
5月	27,787	5,394	15,065	2,967	4,361
6月	19,483	5,712	6,161	3,028	4,582
7月	21,913	9,113	6,224	2,517	4,059
8月	18,173	5,487	7,902	2,779	2,005
9月	23,587	6,110	11,973	4,033	1,471
10月	30,251	5,757	18,707	4,517	1,270
11月	34,134	11,525	10,000	4,264	8,345
12月	44,411	21,419	11,068	4,268	7,656
1月	43,791	13,739	15,354	4,410	10,288
2月	26,814	7,813	8,728	4,143	6,130
3月	36,183	9,962	9,856	4,892	11,473
合計	354,498	107,448	133,891	45,953	67,206

データベースのアクセス数一覧

(1) アクセス数の推移

平成20年度のアクセス数を下表に示した。データベースの年間アクセス数は354,498件、月平均アクセス数は29,541件となっており、合計のアクセス件数は、昨年度(104,727件)よりも約3.4倍に増加している。

その内訳を見ると、遺物データベースと遺跡データベースが100,000件を超えており、アクセスの頻度が高い。

各データベースのアクセス件数を昨年度と比較すると、遺跡データベースは約3.3倍(昨年度32,217件)、遺物データベースは約5.8倍(昨年度22,917件)、写真データベースは約2.5倍(昨年度18,656件)、文献データベースは2.2倍(昨年度30,937件)で、全体的に増加しているが、特に遺物データベースの増加が著しい。

月別のアクセス件数を見ると、10～1・3月が30,000件を超えるなど、下半期のアクセスが多い。

(2) データの入力

種 類	入力数	累計
遺跡(基本データ)	60	13,766
遺跡(調査台帳)	74	3,745
遺物	0	227,330
遺物写真	0	10,954
写真	0	46,617
文献	1,871	12,262
合 計	2,005	314,670

データ入力一覧

平成19年度に遺跡調査部の文化財センター整備担当で作成されたデータ及び当館で作成している「文献データベース」の入力を行った。新規入力数(テキスト)を別表として示した。合計入力数は2,005件となっている。

写真データベースでの4件の減少は、データの見直しを進めたところ、データの重複がみつき、削除したためである。

3. まほろん通信

4月15日、7月1日、10月1日、1月15日の4回、5,000部を発行した。概要は、以下の通りとなっている。

(1) まほろん通信 vol.28 (4月15日発行)

- ・ 実技講座「まっ茶茶碗をつくろう」(表紙)
- ・ 鉄づくりイベント報告その2
- ・ ゴールデンウィークのまほろん
- ・ 文化財研修のご案内(4～6月の研修)
- ・ 平成19年度の入館者数
- ・ まほろんからのお知らせ(『まがたまクッキー』販売開始)
- ・ 今年度の行事予定

(2) まほろん通信 vol.29 (7月1日発行)

- ・ 1学期のおでかけまほろん(表紙)
- ・ 体験学習(実技講座「土器作り」)
- ・ 夏のまほろん(まほろん夏まつり・夏休み特別体験メニュー)
- ・ 企画展案内(金の冠・鐵のかぶとー東京国立博物館収蔵資料に見るふくしまの古墳時代ー)
- ・ まほろん研究広場(アンギンを考える～その2「アンギンはどのような道具や方法で製作されたのか」～)
- ・ 文化財研修のご案内(7～9月の研修案内)
- ・ シリーズ収蔵品紹介7(水辺の祭祀遺物)
- ・ まほろんからのお知らせ(夏休みは無休です)

(3) まほろん通信 vol.30 (10月1日発行)

- ・ まほろん実技講座「親子で土笛づくり」(表紙)
- ・ 体験学習(実技講座「カラムシから布をつ

くろう」・実技講座「古代の染色にちょうせん」

- ・ 秋の館長講演会
- ・ 企画展案内（ふくしまの重要文化財Ⅵ 考古資料：石川町島内遺跡）
- ・ 夏まつりのようす
- ・ まなびピアふくしま 2008 のご案内
- ・ 文化財研修（民俗芸能の見方と楽しみ方 無形の文化財研修）
- ・ シリーズ収蔵品紹介 8（玉川村観音山遺跡 出土の鬼瓦）
- ・ まほろんからのお知らせ（餅つき大会が近づきました）

（4）まほろん通信 vol.31（1月15日発行）

- ・ 餅つき大会のようす
- ・ 体験学習（第8期「まほろん森の塾」の活動）
- ・ まなびピアふくしま 2008 報告
- ・ 企画展案内（新編陸奥国風土記 巻之七

信夫郡）

- ・ まほろん研究広場（網代を考える～「縄文時代から現代に続く技術の連続性」～）
- ・ 文化財研修（専門文化財講座Ⅱ「奥州平泉の調査成果」）
- ・ まるごとまほろん試行

まほろんからのお知らせ

6 文化財に関する研修

1. 研修実施の概要

平成20年度の研修は、入門研修5回、基礎研修1回、専門研修9回、特別研修7回の合計22回を実施した。これらの期日指定の研修以外に、受講者の希望に応じて行う臨時館内研修は6回、職員派遣研修を1回実施している。博物館学学外実習を1回実施した。平成20年度に研修を実施した日数は延べ39日、研修の参加者は671人である。昨年度より2倍近い受講者数となったが、特に専門研修への受講者の

区分	研修名	内 容	期 間	場 所
入門研修	入門考古学講座Ⅰ	考古学の初歩を学ぶ講座	6月22日	館内
	入門考古学講座Ⅱ	考古学の初歩を学ぶ講座	9月13日	館内
	福島県の宝物	指定文化財展に関連した入門的な講座	11月8日	館内
	入門考古学講座Ⅲ	考古学の初歩を学ぶ講座	11月15日	館内
	考古学と地方史研究	考古学と地域の歴史研究との関わり学習する講座	1月31日	福島市
基礎研修	土器復元研修	破片の接合や欠損部分の補修など土器の修復を学ぶ研修	9月27日～28日	館内
専門研修	調査技術研修Ⅰ	考古学に関わる調査技術を学ぶ研修	5月17日～18日	館内
	専門考古学講座Ⅰ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	7月19日	館内
	調査技術研修Ⅱ	考古学に関わる調査技術を学ぶ研修	9月6日	館内
	調査技術研修Ⅲ	考古学に関わる調査技術を学ぶ研修	10月26日	館内
	史跡整備研修	史跡整備のための調査・記録・事務手続きの研修	11月11日	泉崎村
	専門考古学講座Ⅱ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	11月29日	館内
	時代別研究研修	時代別の専門的研修	12月13日	館内
	官衙遺跡研究研修	官衙遺跡の研究成果や調査方法に関する研修	1月17日	白河市
	専門考古学講座Ⅲ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	2月28日	館内
特別研修	体験学習支援研修1	文化財を体験学習に応用する方法を学ぶ研修	4月27日	館内
	体験学習支援研修2	文化財を体験学習に応用する方法を学ぶ研修	5月25日	館内
	体験学習支援研修3	文化財を体験学習に応用する方法を学ぶ研修	6月14日	館内
	文化財保護指導者研修会	県内の文化財保護審議委員や保存会等の人々のための研修	7月29日～30日	白河市
	体験学習支援研修4	文化財を体験学習に応用する方法を学ぶ研修	8月3日	館内
	教職員発掘調査体験研修	発掘調査を体験し学校教育・社会教育に役立てる研修	8月6日～8日	浪江町
	無形の文化財研修	無形の文化財の基礎知識と調査方法を学ぶ	8月24日	館内
	博物館学学外実習	実習をととして博物館の実務を学ぶ	9月9日～13日	館内
	市町村職員長期研修	文化財行政担当者としての全般的な知識を学ぶ研修	臨時的	館内
	臨時館内研修	遺物実測など要望に応じ個別に白河館で対応する研修	臨時的	館内
	職員派遣研修	市町村等の要請によって随時職員を派遣して行う研修	臨時的	館外

文化財研修実施状況



文化財保護指導者研修会でまほろん見学

増加が合ったことに加え、今年度から特別研修に加えた「文化財保護指導者研修会」の効果が大きい。

2. 研修実施状況

平成20年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下の通りである。最も参加の多かった市町村等で文化財の保護に携わる職員・委員は、250人で全体の38%占めている。教職員の参加者は63人で9%、文化財関係の市民ボランティアの208人で31%を占め、その他一般人・学生が150人で22%であった。今年度は「文化財保護指導者研修会」を取り入れたことで、各市町村の文化財保護審議委員の参加が多かった。昨年度に引き続き市民ボランティアや一般の人々の受講も多い。

入門研修は、下表に示した通り入門考古学講座などを5回実施した。

入門考古学講座は、「衣・食・住の考古学」を年間のシリーズテーマとした。「入門考古学講座Ⅰ」は、「住の考古学」をテーマに発掘調査で発見された住まいの形態の変遷を、写真やまほろんの屋外展示を活用して当館の職員が解説した。「入門考古学講座Ⅱ」は、「衣の考古学」をテーマに原始・古代の衣料や、その素材について当館職員が講義した。「入門考古学講座Ⅲ」は、「食の考古学」である。この講座では煮炊用の土器にこびりついた「おこげ」などの炭化物から、原始・古代の調理方法などを類推した。講師は当館職員がつとめた。「福島県の宝物」は、まほろんが秋に行う、県内の重要文化財資料を

展示する企画展とタイアップして行った入門考古学講座である。今回は福島県の重要文化財に指定されている、石川町鳥内遺跡出土の弥生土器をテーマに、展示した弥生土器を職員が解説しながら行った。「考古学と地方史研究」は、「文献資料と考古資料の接点」をテーマに地方史研究に欠かせない文献資料と、発掘調査などで発見された考古資料との相互関係について、福島県歴史資料館の本間宏氏が、福島県文化センター視聴覚室で講義を行った。

基礎研修は、「土器復元研修」を実施した。「土器復元研修」は、土器の補強・復元の基礎技術を学び、復元した土器を展示公開できるようにするための研修である。いわき市教育文化事業団理事の松本友之氏に講師をお願いして実施した。

専門研修は、専門考古学講座や調査技術研修などを9回実施した。「専門考古学講座」は今年の「館長講演会」のテーマに合わせて「北日本の文化」をシリーズテーマとした。「専門考古学講座Ⅰ」は、東北古代史研究の第一人者である福島大学名誉教授工藤雅樹氏に「蝦夷と東北の古代」を演題に講義していただいた。「専門考古学講座Ⅱ」は世界文化遺産登録を目指していた平泉町から、平泉の遺跡調査に携わった八重樫忠郎氏をお招きして「奥州平泉の調査成果」について講義していただいた。「専門考古学講座Ⅲ」は、「周辺民族と禁鉄政策」について東北大学大学院教授の深澤百合子氏に講義をお願いした。北海道アイヌや古代中国の北方民族における鉄生産の在り方を講義していた



調査技術研修Ⅰのようす

だいた。「調査技術研修」は、発掘調査技術に関する専門研修で、「調査技術研修Ⅰ」は土器の表面を観察し、土器表面に付着した炭化物から、土器の使用法や調理法を解き明かす「スス・コゲから見た縄文・弥生土器、土師器による調理方法」を北陸短期大学教授の小林正史氏が講義した。「調査技術研修Ⅱ」は土器の表面を観察して、土器の作り方を考察する研修である。講師は当館職員が担当した。「調査技術研修Ⅲ」は、藤本強館長が大型フィルムカメラによる写真撮影の必要性について講義したのち、大型カメラの使用法を実践した。「史跡整備研修」は、史跡整備に関する調査・整備方法・事務手続きなどについて学ぶ研修だが、今回は泉崎村の「泉崎装飾横穴」の整備について、整備を担当した嶋村一志氏に講義していただいた。「時代別研究研修」は、縄文時代後期前葉の土器に関する研究成果を当館職員がまほろん所蔵の土器を実見しながら、講義を行った。官衙遺跡研究研修は、「古代白河郡の官衙と官衙関連遺跡」をテーマに白河市教育委員会の鈴木一寿氏が講義した。

「特別研修」のうち「体験学習支援研修は、土器作りや土器の焼き方、植物から糸を取る方法などを研修した。今年から特別研修に加わった「文化財保護指導者研修会」には県内の文化財保護審議委員の皆様が大勢ご参加いただいた。「教職員発掘調査体験研修」は浪江町の田子平遺跡で実施した。「無形の文化財研修」では民俗芸能の見方を県文化財保護審議会委員の懸田弘訓氏に講義していただいた。

このほかに、「臨時館内研修」を5回、「職員派遣研修」を2回実施した。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 「研究復元製作

(1) 研究復元の目的

研究復元事業は、遺跡から出土した遺物や確認できた遺構を対象とし、古代の技術や素材をできる限り検討し、今に甦らせるものである。

平成17年度から「金工史から見た古代石背・石城国設立の謎」をテーマとして、いわき市中田横穴出土馬具類を復元製作している。

この研究復元では、開館時に復元した白河市

筑内37号横穴墓から出土した馬具類との比較検討を行い、福島県の古墳時代金工技術の地域差から、その社会背景に迫り、さらには古代の石背・石城国の設立の謎を解明することを目的とする。

(2) 研究復元の計画

対象とした資料は、いわき市中田横穴出土の馬具類であり、これらを以下のような年次計画で復元する。

平成17年度：金銅装木製鞍と尻繫関連

平成18年度：金銅装鐙（三角錐形壺鐙）の内、木胎部

平成19年度：金銅装鐙（三角錐形壺鐙）の金属部製作及び完成

平成20年度：障泥

平成21年度：馬鈴

平成22年度：胸繫

平成23年度：面繫

(3) 平成20年度の経過

平成20年度は障泥を製作することとし、製作に関する検討会を3回、中田横穴の装飾壁画の色調調査を1回実施した。

7月29日：第1回検討会（於：まほろん）

国内・韓国の出土例や現存例、埴輪馬の装飾をもとに中田横穴の障泥について想定復元。

9月14日：中田横穴壁画色調調査（於：いわき市中田横穴）

中田横穴の一般公開日に合わせ、横穴を見学するとともに、壁画の色調を色見本に照らし合わせて検討。

12月25日：第2回検討会（於：まほろん）

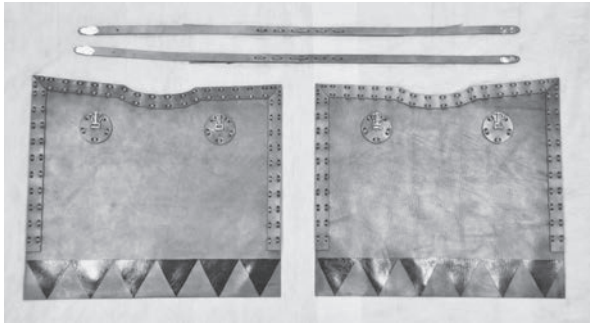
障泥縁飾りの材質・細部、金銅製鉸具の止め方、革の処理などについての検討。

3月15日：第3回検討会（於：まほろん）

2枚の障泥を一体化させる革帯の検討・調整後、納品。

(4) 復元した資料

中田横穴に副葬された馬具のうち、障泥は本体が出土していないことから、有機質であったと推測される。障泥は鞍や鐙とセットのものであることから、過年度の鐙製作の際に参考と



完成した障泥



装着した障泥

した奈良県牧野古墳出土の障泥を参考に設計した。

障泥本体は2枚製作し、形状は長方形基調で、天は鞍に合わせて後下がりとし、中央部をくぼませた。大きさは縦560mm、横500mmで、厚さ3mmに漉いた革を使用し、下部には実際の壁画の色に合わせて、ベンガラを用いた朱漆による下向き6個の鋸歯文を施した。縁飾りは天・左・右の3辺に付け、左右の長さを上方3/4とし、幅30mm、厚さ4mmの革を厚さ2mm、幅約3mmの革紐で縫い付けた。吊り金具は1枚に付き2個ずつ製作し、円形の台座の革に金メッキした鉸具を接合してから台座を本体に革紐で縫い付けた。なお、縁飾り・台座とも縫い付けた革紐が鉾のように見えるようにした。

革帯は2本製作し、それぞれの先に金メッキした帯先金具を取り付けた。

なお、使用した革はタンニンなめし処理した厚さ4～5mmの牛革で、漆塗りを施した。

2. 研究紀要

研究紀要 2008 目次

—研究論考—

- ・ まほろん3号炉による製鉄操業—平成19年度「古代の鉄づくり」イベント報告—(能登谷宣康)
- ・ 「鉄づくり」イベント産出鉄塊の分析調査(JFEテクノリサーチ株式会社)
- ・ まほろん3号炉(南相馬市大船迫A遺跡15号製鉄炉の復元炉)における操業条件と鉄塊の組織観察(佐藤健二)
- ・ 金沢地区製鉄遺跡群の製鉄炉における踏み輪規模の変化について(安田稔)
- ・ 古代集落内土師器生産の新事例(菅原祥夫)
- ・ 相馬市高松古墳出土の須恵器について(丹治篤嘉)
- ・ 公開型遺跡データベースについて(藤谷誠)
- ・ 栗田式土師器杯製作技法に関する一試案—製作体験による報告—(石本弘)
- ・ 縄文時代の網代—弓手原A遺跡の底部圧痕土器より—(佐藤悦夫・大波紀子)

8 ボランティアの運営

1. 登録

(1) まほろんボランティア

当館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』といい、登録形態によって「個人登録ボランティア」と「団体登録ボランティア」とにわかれる。団体登録ボランティアは『しらかわ語りの会』(12名)の登録があり、イベント等での館活動にご協力いただいた。

一方、個人登録ボランティアの登録状況は別表の通りである。登録希望者は規定の研修修了後、既存の登録者は更新手続き後、4月1日付けで登録が行われる。なお、特に断りがない場合、以下に挙げるボランティア活動の記述は個人登録ボランティアに関連してのものである。

平成20年度登録者数	41人(男性21人女性20人)
平成20年度登録者最年少年齢	19歳
平成20年度登録者最年長年齢	81歳
平成20年度登録者平均年齢	58歳(男性58歳女性57歳)

まほろんボランティア登録状況

平成20年度登録者数	15人
平成20年度登録者主体年齢	11歳
平成20年度新規登録者数	10人

まほろんサポーター Mets 登録状況

(2) まほろんサポーター Mets

まほろんサポーター Mets(メッツ)の活動内容は、まほろんボランティアの活動が館の運営方針に則った自主的なものであるのに対し、職員やまほろんボランティアの指示によりそれらの館活動の補助を行うものである。

2. 活動内容

(1) 活動内容

1) 主な活動内容は以下の通りである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習(実技講座・団体等)の支援
- イベント(餅つき大会等)の支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理

2) 自主活動グループとしての活動

いくつかの自主活動グループが形成され、グループごとに企画・運営・自主研修が行われている。自主活動グループは以下の通りである。

- まほろんオリエンテーリング
- 植物観察ツアー
- 見どころ案内ツアー
- 土器づくりグループ
- アンギン編みグループ
- 収蔵資料の修復・復元グループ



ボランティアイベントのようす

● イベントグループ

3) まほろんボランティアの会の運営

平成17年度より個人登録ボランティアで構成する『まほろんボランティアの会』を発足し、埋蔵文化財の愛護と普及、会員の資質向上と相互交流を目的に自主的な組織による運営が行われている。

(3) 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、ボランティア3原則のもと、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸グループに正・副2名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。

(4) ボランティアイベント

1) まほろん祭り ボランティア 2007

昨年度に引き続き、まほろんイベント「餅つき大会」と同日開催として実施した。自主活動グループの活動紹介を中心に、来館者の方々にボランティア活動への理解や関心を高めてもらうことを目的として行われた。「餅つき大会」との相乗効果で、終始盛況であった。

開催日時：平成20年12月7日(日)10:00～14:30

9 その他

1. 年報

A4版32ページの「年報2008」を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター運営協議会は、年2回開催し、委員からの運営に関する意見を館の管理運営に反映させるように努めている。

- ・ 第1回 平成20年8月30日
- ・ 第2回 平成21年2月27日

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

所在地：〒961-0835 福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

管理機関：財団法人福島県文化振興事業団

開館：平成13年7月15日

○建築

設計：株式会社佐藤総合計画

工事監理：福島県土木部都市局営繕課・株式会社佐藤総合計画

施工

建築工事：佐藤工業株式会社・株式会社兼子組特定建設工事共同企業体

機械設備工事：山田設備工業株式会社

電気設備工事：福島電設株式会社

○展示

設計監理：日精株式会社

屋内展示製作：株式会社乃村工藝社

屋外展示製作：株式会社トリアド工房

1 建築概要

敷地面積：51,827.51㎡

建築面積：本館・収蔵庫棟 5,999.955㎡

体験学習館 133.627㎡

延床面積：本館棟 2,400.046㎡

収蔵庫棟 2,999.769㎡

計 5,399.815㎡

体験学習館 92.71㎡

構造：(本館棟)鉄筋コンクリート造、(収蔵庫棟)鉄骨造、(体験学習館)木造

規模：地上1階(最高高さ10.29m、軒高8.79m、階高4m)

駐車台数：一般駐車場91台(身障者用4台)・大型車駐車場

10台・臨時駐車場40台・職員駐車場21台・駐輪場28台

地域地区：都市計画区域内・無指定

主な外部仕上げ

(本館棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、陸屋根：アスファルト防水コンクリート押さえ、外壁：コンクリート打放し一部はつり仕上げフッ素系シラン塗装、建具：アルミサッシ電解着色、外構：インターロッキングブロック(環境整備工事)

(収蔵庫棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：コンクリート打放しフッ素系シラン塗装・押出し成形セメント板フッ素系シラン塗装、建具：スチール製建具

(体験学習館)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：粒状陶石塗、建具：アルミサッシ電解着色

主な内部仕上げ

(エントランス・プロムナードギャラリー)床：フローリング・花崗岩JB、壁：コンクリート打放しはつり仕上げフッ素系シラン塗装・木練付不燃パネル、天井：木練付不燃パネル

(事務室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(常設展示室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板・一部溶接金網メラニン焼付け二重天井化粧石膏ボード

(特別展示室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(体験活動室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビ

ニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(講堂)床：フローリング、壁：腰壁／ガラスウール吸音材＋集成材染色塗装、上壁／岩綿吸音板、天井：岩綿吸音板

(研修室・実習室)床：ビニルシート、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音

(収蔵庫棟)床：塗り床、壁：木繊維セメント板・セメント成型板、天井：木繊維セメント板

(体験学習館)床：合板張り一部畳敷き、壁：合板オイル拭き、天井：合板オイル拭き

2 設備概要

◎電気設備：受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA

非常照明設備・誘導灯設備：建築基準法に基づいて設置

放送設備：非常放送と兼用、出力240W

電気時計設備・テレビ共同視聴設備・インターホン設備

電話設備：電子交換外線4回線(ISDN)内線55回線

監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停

制御及び計測監視

◎防犯・防災設備

防犯設備：赤外線スペースセンサー・マグネットセンサーを各室に設置し、監視制御システムと併用

ITV設備：ITVを必要箇所に設置し、常設展示室、特別展示室、エントランス・プロムナードギャラリー、搬入口、体験広場の状況を事務室・警備員室で監視

火災報知設備：受信盤P型1級19回線(自火報)4回線(防排煙設備)、煙感知機66箇所、熱感知機107箇所、ガス漏れ検知器6箇所

防災設備：消火／屋内・屋外消火栓、HFCガス消火方式、排煙／自然排煙

防火扉設備：5回線

雷警報設備：襲雷警報器(コロナーム)

避雷針設備

◎空調設備

空調方式：一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式(一部空冷HP)＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト(空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット)方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト(ガスエンジンHPP)方式

熱源：都市ガス(ガス種別：プロパン)

◎衛生設備

給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流(最終櫛でポンプアップ)方式で下水道本管へ放流、雨水；側溝放流

多目的便所：屋内1箇所(男女別)、屋外1箇所(男女別)、トイレ呼出設備付

◎昇降機設備

荷物用リフター2基：一般収蔵庫(油圧式 最大積載量1,000kg)、搬入口(油圧式 最大積載量1,000kg)

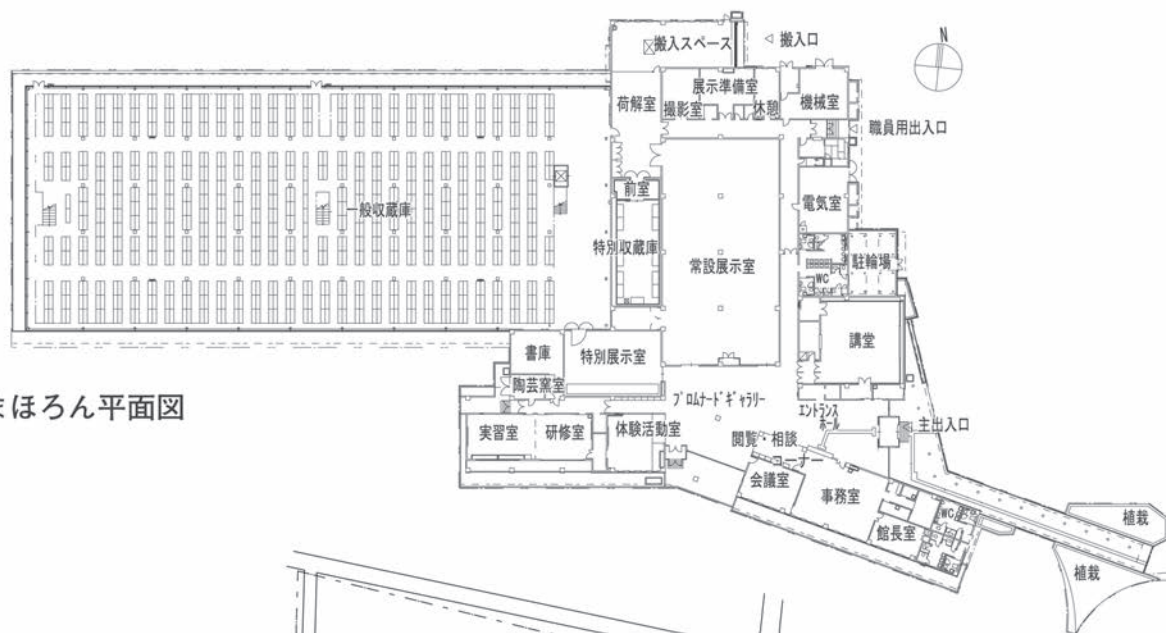
工期 着工平成11年7月12日 完成平成12年10月16日

建築事業費 2,690,848千円

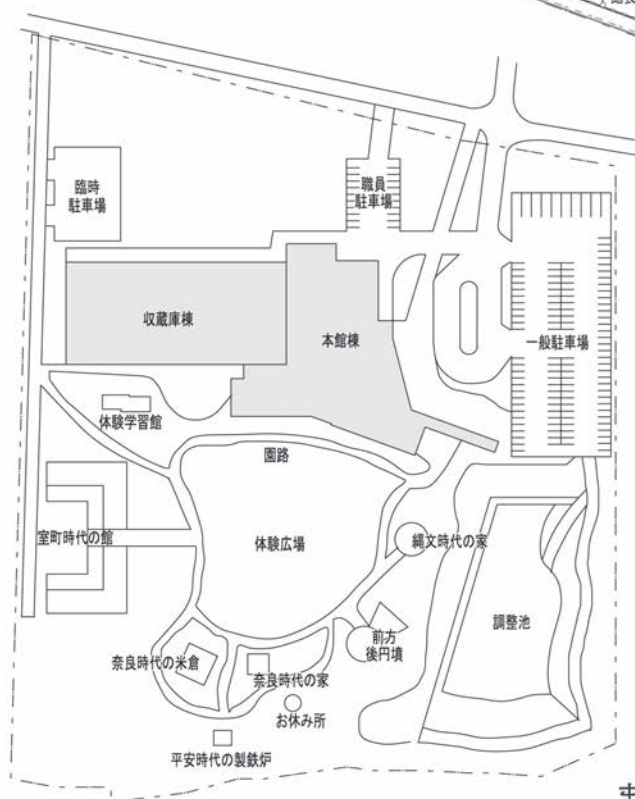
公有財産購入費 222,095千円

その他の経費 387,682千円

合計 3,300,625千円



まほろん平面図



まほろん配置図

主要諸室面積表 (㎡)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16				
救護室	9		体験学習館	93	

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- 一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- 一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
- 二 白河館の維持管理に関すること。
- 三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。
- 2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
- 3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わな

いこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 一 前条の規定に違反した者
- 二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

- 1 この条例は、平成十八年四月一日から施行する。
- 2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手續は、この条例の施行の日以前においても行うことができる。

附 則(平成一八条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期的休館日は、次のとおりとする。

- 一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。
- 二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- 三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時

までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

（平一七教委規則一六・一部改正）

（文化財等の特別利用）

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

（委任）

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。

（施行の日＝平成一三年七月一五日）

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

まほろんの利用案内

開館時間 ・ 午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

入 館 料 ・ 無料

交通案内 ・ JR 東北本線白河駅、JR 東北新

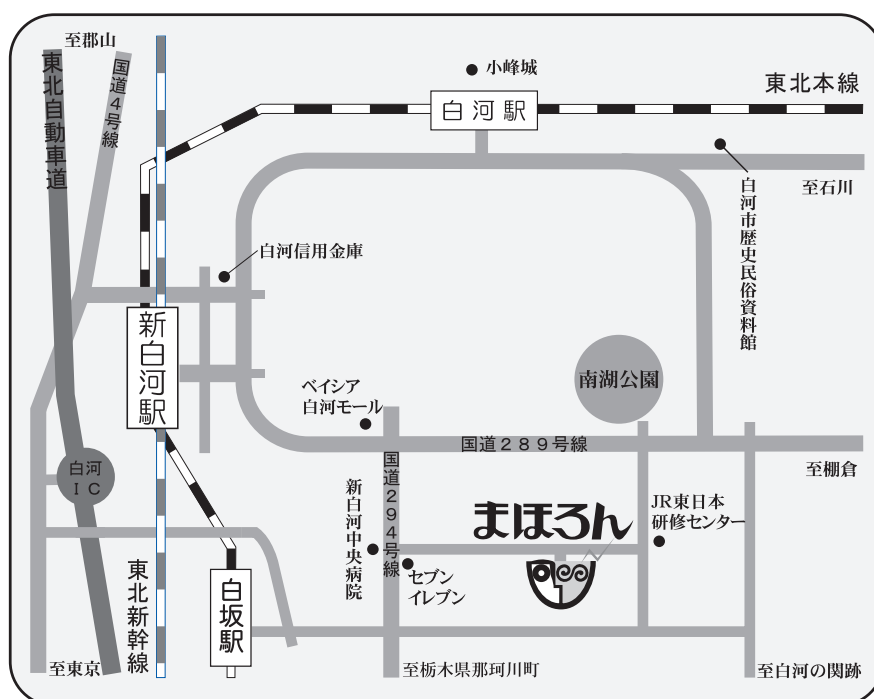
幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂、白坂駅行き）

まほろんバス停下車

・ JR バス（棚倉行き）南湖公園下車 25 分

・ 東北自動車道白河 I.C. から車で 20 分

そ の 他 ・ 屋内・屋外に多目的トイレを備えています。車いす・ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2009

平成 22 年 3 月 12 日発行

編集 (財) 福島県文化振興事業団

発行 福島県文化財センター白河館

〒 961-0835 白河市白坂一里段 86

TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075

<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>

印刷 (有) 平電子印刷所

表紙デザイン 久家三夫